

今日のイエスさまのお話は、私たちにとって素直に受け入れることが最も難しい福音かもしれません。何度読み返して見ても、どんな説明を聞いても、私たちの心には、割り切れない思いが残ってしまうことを認めざるを得ません。

「最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いた私たちと、この連中を同じ扱いにするとはい。」という訴えに、私たちも思わず、「全くそのとおりだ。」と同情をもって共感したくなります。

私たちの中にそのような思いがある以上、私たちはこの福音を、キリスト教に興味を示してくれる親しい人と一緒に読むことはできません。私たちが心のうちを感じている通りの反応をその人も感じるにちがいないと思うからです。カトリック信者としての自分の中に、その人に納得してもらえらるような、信仰者としての受け止め方を説明する自信が持てないでいるからです。

けれども、そのような私たちにも言えることは一つだけはあるはずで、これは、イエスさまが語られたことばであるということです。そして、イエスさまが語られたことは、私たちが説明する必要がないということです。私たちの説明によって、イエスさまのことばは受け入れられるようになるものではないということです。私たちはイエスさまの語られたことを福音と信じて受け止めているので、イエスさまの語られたことを全てうまく説明できなくてもよいのだということです。もう一言だけ付け加えるなら、私たちは、今はまだ十分に説明できないでいるイエスさまの福音のおことばを、イエスさまがいつか私たちに分からせてくださると信じているということです。

私たちがこのように言ったとしても、キリスト教に興味を示してくれた信者ではないその人には、きっと、うまく通じないことでしょう。私たちが正直に自分の信仰を告白したとしても、そのままでは、イエスさまへの信仰を共有するまでには至っていないその人には、ますます分からないということになってしまうかもしれません。

けれども、私たちに質問を浴びせかける人が、真剣にキリスト教の信仰を求めている人であれば、きっと次のように訊いてくるはずで、「あなたたちは、自分でもうまく説明できないことを、イエスさまのおことばだから受け入れると言うけれども、イエスさまの言われたことなら何でも受け入れるというのは

何故ですか。」このような質問に答えに窮した時、私たちは次のように答えれば良いと思います。「私たちが信じているイエスさまは神の御子で、イエスさまは私たちにこの世のことだけではなく、神の国、天の国について教えてくださるからです。」私たちがそのように答えることが出来たとしたら、私たちはそこで、ハッと気づくべきです。そうです、イエスさまはこのお話によって、私たちに天の国を語っていてくださるのです。このことに気づくことができたなら、私たちの中でもやもやしていたものが、一気に晴れてゆくように感じる事が出来るかもしれません。イエスさまの語られる天の国は、この世の私たちの生き方を束縛している損得勘定の彼岸に開けているのです。「あの人たちはいい目を見ているのに、自分はいつも損ばかりしている。」といった、私たちのうちに抑えがたく湧き起こってくる、心の葛藤を超えたところに拡がっているのです。

イエスさまの語られたことをこのように理解出来たとしても、もちろん、そのことによって、私たちは直ちに天の国を自分たちのものにする事が出来るわけではありません。けれども、天の国のありかを教えていただいた者たちとして、私たちの生き方は少しずつではあっても、変えられてゆくのではないのでしょうか。イエスさまはそのことを望まれて、このお話をしてくださったのです。そればかりではありません。私たちに天の国のありかを示してくださったイエスさまは、この世において私たちが天の国を生きはじめる事が出来るように、私たちをご自分の教会に招き入れてくださったのです。

教会に来て、私たちは直ちに天の国の喜びを味わうわけではないかもしれませんが、この世に生きる私たちの人間同士の集いである限り、教会もこの世を支配する損得勘定や競争意識の渦を完全には超越できません。けれども、教会に来て、主の祭壇の前に集まる時、私たちはこの世において可能な限り天の国を味わい始めているのではないのでしょうか。私たちが日曜日ごとにミサに与るのは、損得勘定によってではありません。他の人に遅れを取らないためでもありません。毎年の復活祭に洗礼を受ける方々をお迎えする喜びは、単に新しいメンバーを獲得できたことを喜んでいるわけではないはずです。そしてなりよりも、私たちの心が落ち着いていて、ご聖体をいただくことが出来た時には、私たち一人ひとり自分に与えられた恵みの喜びに満たされる経験をしているはずです。私たちはカトリック信者としての最も基本的な信仰生活を大切にすることによって、イエスさまが教えてくださった天の国のあり方に近づいているのです。そのことが私たちの中にもっともっとはっきりと受け止められ、その喜びが私たちのあり方を変えて行くよう祈り求めたいと思います。私たちの一

人ひとりの日々がどのようなであっても、今日も、その一人ひとりの私たちに十分に与えられる神さまの恵みに一人ひとりの私たちが満たされることを、そしてそれを、ここに集う私たちが互いに喜びあえることを願い求めたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高